

# Scrum —スクラム—

平成 25 年 5 月 31 日  
平成 25 年 5 月号 (第 26 号)  
東京都教育庁指導部  
義務教育特別支援教育指導課

## あいさつ

指導部特別支援学校教育担当課長 山本 優

特別支援学校教育担当課長の山本です。私たち(特別支援教育班)は、本誌の中で「特別支援教育の窓」を担当しています。どうぞよろしくお願いいたします。

「特別支援教育の窓」では、「個別の教育支援計画」や「副籍制度」など、特別支援教育の推進・充実に関するキーワードの解説や、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画に基づいて実施している各種事業の進捗状況及び研究成果などを、分かりやすくお伝えしていきたいと考えています。

特別支援教育は全ての学校で実施されるものです。全ての学校で実施するということは、「全ての教員が関わる」ということを意味します。これからの時代は、全ての教員が発達障害に対する正しい理解や指導と支援に関する基礎的な知識・技能を身に付ける必要があります。教員一人ひとりの専門性の向上に寄せる保護者や都民の期待も大きいものがあります。

発達障害は外見からは分かりにくい障害です。なかには、うまく周囲とコミュニケーションをとれない児童・生徒もいます。そのため、教員や周囲の友達からは「教えにくい」、「付き合いにくい」と思われてしまうこともあります。最も困っているのは本人自身であると思います。

私たち教員には、そうした児童・生徒の心情に丁寧寄り添い、一人ひとりの学校生活が豊かなものとなるよう適切に支援することが求められます。そのためには、教員一人ひとりの努力だけでなく、周囲の友達や保護者等の理解と協力が不可欠です。その意味で、全ての学校で実施するということは、「(学校に関係する) 全ての人に関わる」ということでもあります。

## 目次

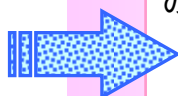
- 学力向上パートナーシップ事業がスタートします。…………… 2
- 平成 25 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を活用した授業例…………… 3
- 「理数教育の窓」— 理数好きの子供たちを育てるために — …………… 4
- 「道徳教育の窓」— 東京の子供たちの豊かな心を育む — …………… 5
- 「特別支援教育の窓」— 全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して — …………… 6

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、順次「学び応援ページ」に掲載します。

(東京都教育委員会ホームページアドレス  
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>)

**学び応援ページを御活用ください!**



東京都教育委員会ホームページ・トップページ  
の下の方に、このバナーがあります!

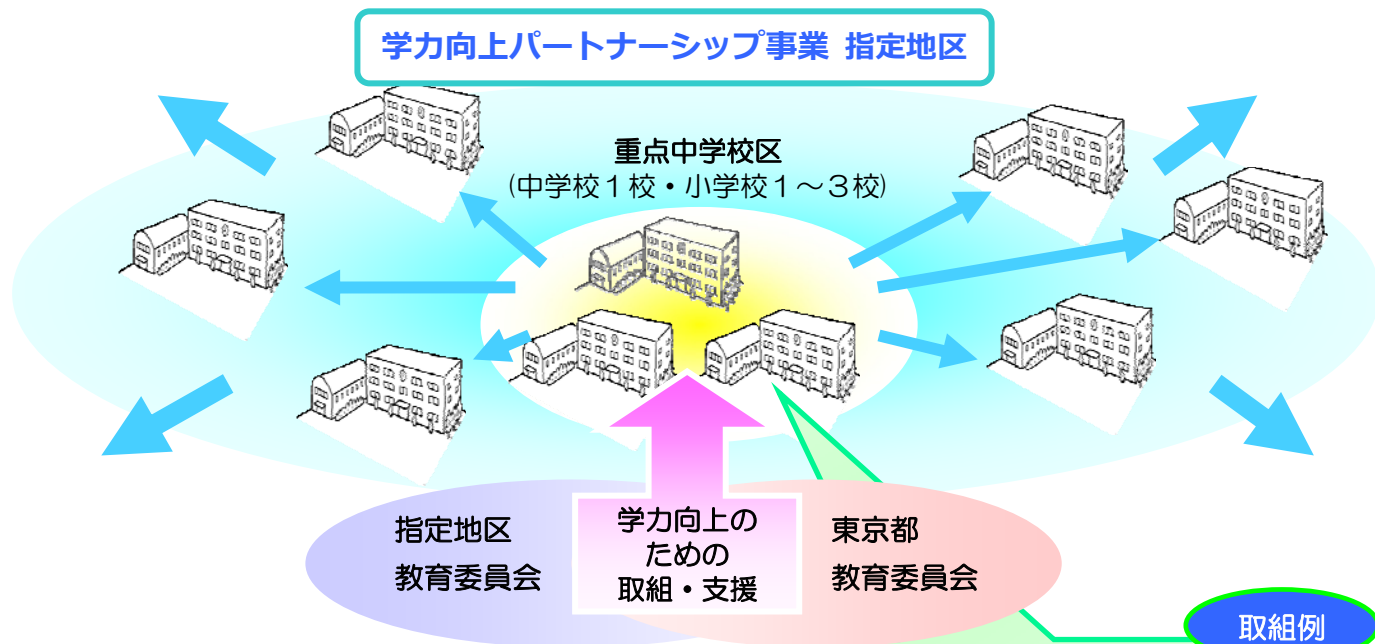


★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、[S9000024@section.metro.tokyo.jp](mailto:S9000024@section.metro.tokyo.jp) へメールを御送信ください。

# 学力向上パートナーシップ事業がスタートします。

東京都教育委員会では、今年度から2か年計画で、新規事業として、「学力向上パートナーシップ事業」を実施します。本事業は、都内8区市の重点中学校区（中学校1校と近隣の小学校1～3校）の学校を調査研究校として指定し、その研究校を所管する区市教育委員会と連携しながら、学力の定着に課題の見られる児童・生徒への効果的な指導方法の開発に資する調査研究を実施し、その成果を全都に普及していくことを、ねらいとしています。

ここでは、その概要を紹介します。



- ◆ 都教育委員会と指定地区教育委員会とが緊密な連携を図りながら、児童・生徒に対する効果的な指導方法を開発します。
- ◆ 各指定地区では、重点中学校区（中学校1校・小学校1～3校）と重点教科（国語又は算数・数学）を指定し、地区全体に取組を広げるための拠点とします。
- ◆ 都教育委員会は、「学力向上パートナーシップ研究協議会」を開催して、全都に研究成果を普及します。

- ◆ 「課題把握テスト」、「効果測定テスト」（都教育委員会作成）等の実施
- ◆ 習熟度別少人数指導の充実
- ◆ 小中合同研究の体制づくり
- ◆ 「東京ベーシック・ドリル」（都教育委員会作成）等による反復学習の徹底
- ◆ 個人カルテによる個別指導の充実  
その他、指定地区教育委員会や各調査研究校による指導方法・指導体制等の工夫

各調査研究校の取組、授業公開や協議会等の情報については、メール・マガジン「Scrum」で配信していきます。



## 平成25年度 学力向上パートナーシップ事業 指定地区（調査研究校）

- 墨田区（立花中学校・立花吾嬬の森小学校）
- 葛飾区（金町中学校・花の木小学校）
- 青梅市（第二中学校・第二小学校・友田小学校）
- 武蔵村山市（第三中学校・第二小学校・第八小学校）
- 荒川区（諏訪台中学校・ひぐらし小学校）
- 立川市（立川第一中学校・第一小学校・第四小学校）
- 福生市（福生第二中学校・福生第二小学校）
- あきる野市（東中学校・東秋留小学校・屋城小学校・前田小学校）

# 平成 25 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を活用した授業例

平成25年4月24日(水)、「平成25年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。児童・生徒一人ひとりの学習上の課題やつまずきの状況を把握するための資料として、あるいは、効果的な学習活動を展開させるための材料として、調査問題を有効に活用しましょう。

ここでは、「中学校国語A」③(書く能力をみる問題)を活用した授業例を紹介します。

## 推薦文を書こう

### 【中学校学習指導要領 国語】第2学年 書くこと

イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

○言語活動例イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。



「本だなん」と「読むゾウくん」  
読書を推進するためのキャラクターとして、  
あなたはどちらを推薦しますか？

### 指導のポイント

自分が推薦するキャラクターを選び、**推薦する理由を明確にして**推薦文の下書きを書く。

推薦する理由(根拠)を明確に書かせるようにします。「理由を述べる段落」「意見を述べる段落」など段落の役割を意識させ、文章全体の構成を考えさせるようにすることが大切です。

自分とは違うキャラクターを選んだ者同士で下書きを読み合い、**自分の下書きを基に相手への反論を書く。**

「反論」は、「非難」や「攻撃」にならないようにさせます。相手の意見・考えに対して、根拠(理由)を明確に示したり、例を挙げたりしながら反論させることが大切です。

書かれた**反論を踏まえて**、推薦文を完成させる。

他の生徒からの反論に対して、「再反論する」「異なる視点から自分の意見を検討し直す」「反論を予測して論を組み立てる」といった活動に取り組みせ、多角的な視点から推薦文を構成させるようにします。

書いた文章を互いに読み合い、**文章の構成について相互評価**する。

論理の展開や説得力について、相互評価をさせます。評価の観点を絞ることで、身に付けるべき力を明確に意識させることが大切です。

自分の意見を効果的に伝えるために  
文章の構成を工夫して書く力

紹介した事例のように、調査問題の内容や活用の方法によっては、他学年での活用も可能です。

また、学習活動を終えた後で、実際の調査問題に取り組みさせることも、効果的な学習につながります。



「平成25年度 全国学力・学習状況調査」の正答例、調査問題及び解説資料は、国立教育政策研究所ホームページに掲載しています。(URL <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

# 「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために—

## 東京都教育委員会の「理数教育の充実に向けた取組」について

東京都教育委員会では、理数教育の充実を図るため、様々な取組を実施しています。今回は、小・中学校を対象とした平成 25 年度の取組の一部を紹介します。

### 1 理数フロンティア校

東京都全体の教員の指導力向上及び授業改善を図ることを目的として、各区市の理数教育における中核を担う学校を理数フロンティア校として指定しています。理数フロンティア校では、効果的な教材や指導方法の研究開発とともに、同じ地区の教員等を対象にした授業公開や実技研修等を行います。

- 1 指定校数 小学校 50 校、中学校 50 校（原則として各区市の小学校 1 校、中学校 1 校）
- 2 指定期間 平成 25 年度から平成 26 年度までの 2 年間
- 3 実施内容 (1) 効果的な教材、指導方法の開発 (2) 理数教育地区公開講座の実施  
(3) サイエンス・サポーターの活用  
(4) 指導力向上のための教員研修（授業公開と協議） など

#### 理数教育地区公開講座の実施

平成 25 年 5 月 11 日（土）、福生市立福生第四小学校において理数教育地区公開講座が開催されました。

5 校時に全学級で理科又は算数の公開授業が行われ、多くの保護者・地域の方々が参観しました。公開授業後は、桜美林大学の片谷教孝専任教授が「小学生に理科の関心を持たせるための試み」という演題で、保護者・地域の方々、教員を対象に講演してくださいました。



### 2 東京ジュニア科学塾 ～今年度の募集は終了しました。～

東京都から未来の科学技術を担う人材を輩出するため、東京都内の公立中学校（中等教育学校前期課程を含む）の第 1 学年生徒が科学に関する専門家等による指導を受ける「東京ジュニア科学塾」を実施します。

- 1 対象 都内の公立中学校（中等教育学校前期課程を含む）に通う第 1 学年生徒 40 名
- 2 実施期間等 平成 25 年 7 月から平成 26 年 2 月の日曜日の全 8 回（夏季休業期間中のみ平日）  
※ 原則として、午前 10 時から午後 3 時まで（第 1 回、第 8 回は午前のみ）
- 3 実施内容（予定）

回	午前		午後	
1	東京都庁	白川英樹博士の講演を聴く。		
2	気象庁	施設見学、天気に関する実習をする。	ニ-エクスプローサイエンス	IC カード乗車券等の仕組みを学習する。
3	観音崎自然博物館	観音崎海岸において、海岸の生物を観察する。		
4	芝浦工業大学	江戸っ子 1 号にかける思いや技術を知る。	金町浄水場	浄水処理システムの仕組みを理解する。
5	都立科学技術高校	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）を訪問し、実験を体験する。		
6	国立科学博物館	グループ見学、グループ発表を行う。		
7	国立天文台	最新の天文学、研究施設に触れる。	電気通信大学	オペレーションズ・リサーチを学習する。
8	東京都庁	講演を聴くとともに、一年間の活動を振り返る。		



# 「道徳教育の窓」

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

## 東京都道徳教育教材集

### 第1章「先人のことばに学ぶ」を活用しよう！

#### ● 小学生にとっては、聞き慣れない「ことば」もあるかもしれません。…

「先人のことば」の中には、言い回しや使われている語句に難しいものもあり、場合によっては、それらについての解説が必要となるでしょう。しかし、重要な点は、個々の「ことば」の意味を厳格に、詳細に教え込むことが、この章の目的ではないということです。また、当然、掲載順に教える必要もありません。

#### ● 人が生きていく上で大切な「真実」が込められた「ことば」を、子供たちへ…

この章には、古いもので2500年ほど前に発せられた「ことば」もあります。その「ことば」が文字として残り、あるいは口伝えに21世紀の現在も生き続けているのはなぜでしょうか。

それは、そこに、人が生きていく上で大切な「真実」があるから です。

子供たちが、「先人のことば」を通してその「真実」に触れ、今は届かなくても、そこに向かって手を伸ばしてみる。たとえ今は意味が分からなくても、いつかふっとその言葉と自分の人生が結び付く。そういうものであってほしいと思います。あるいは、そのようにたくさんの言葉と向き合っていくことができる心をもってほしい。そんな思いが、この第1章には込められています。

#### ● まず、教師一人ひとりが、「ことば」の素晴らしさを実感してほしい。…

そのために、まず、教師一人ひとりがじっくりと「ことば」に触れ、その素晴らしさを実感してもらいたい、その上で、その「ことば」を子供たちに手渡してってもらいたいと考えます。

道徳の時間だけでなく、学校生活の様々な場面で、例えば、朝の会で、運動会の練習の際に、また、放課後に子供たちと語り合う場面で、「先人のことばに学ぶ」を活用してください。

#### 小学校の活用例

##### 小学校1・2年生版「心 あかるく」

「大事をなさんと欲せば、…」 p. 2

「千里の道もひと足宛はこぶなり。」 p. 3

「七転び八起き」 p. 4

「志有る者は事竟に成る。」 p. 5



「毎日毎日、小さなことであっても、その積み重ねが大切。失敗したりあきらめそうになったりすることがあっても、くじけしないで、努力を積み重ねよう！  
いつか必ず目標を実現できる！」

学級活動の指導で暗誦させたり「ことば」の意味を考えさせたりする。道徳の時間の展開・後段や終末で活用し、「ことば」をきっかけにして思いや考えを書かせたり発表させたりする。

##### 小学校3・4年生版「心 しなやかに」

「友だち

わたしより

わたしのことを

よく知っている…」 p. 16



帰りの会等で、今日一日の出来事を振り返り、話し合うときに、この詩を紹介しながら、友達のよさについて伝え合ったり、友情の大切さについて考えさせたりする。

##### 小学校5・6年生版「心 たくましく」

「あたたかい心で人の中に住め。

人のあたたかさは、

自分の心があたたかでいなければ

分かる筈もない。」 p. 16



高学年になると、友達との関わりの中で意見が衝突したり、考え方の違いに悩んだりすることも多く見られる。道徳の時間の終末や学級活動で活用して、自分を振り返らせ、他者を思いやる心について考えを深めさせる。

# 「特別支援教育の窓」

— 全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して —

## 副籍制度について

～これからの副籍制度の方向性～

都教育委員会では、都立特別支援学校の小学部・中学部に在籍する児童・生徒の地域とのつながりを維持・継続するために「副籍制度」を導入しています。昨年度、これからの副籍制度のさらなる充実に向けて、関係する方々へのアンケート調査を行いました。

アンケートでは、次のような声が寄せられました。



### 特別支援学校の保護者から

「地域で声をかけてもらうようになって嬉しく思う」  
「自宅にお便りを届けてくれ、玄関でお互い仲良く向き合う感じがした」  
「スーパーマーケットで買い物中に子供とはぐれてしまった時、地域指定校の友達と一緒に探してくれた」



### 地域指定校の教員から

「交流を通じて学級の児童・生徒の障害理解が進んだ」  
「直接交流をしている時の学級の児童・生徒の優しい態度がうれしい」  
「継続することで子供同士の信頼関係を深めていける」  
「副籍制度は共生社会の形成に意義がある」



アンケートからは、



- 副籍を利用している特別支援学校の保護者の多くが、学校便り等が届くのを楽しみにしていたり、直接交流の内容について満足していたりと、地域とのつながりが深まっていると感じている。
- 地域指定校の多くの教員が、副籍制度を充実させるためには小・中学校の主体的な取組が必要であると考えている。

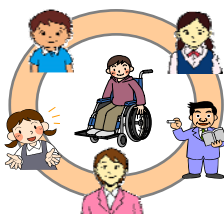
といったことが分りました。

### これからの副籍制度が目指すもの



障害のある人もない人も住民の誰もがお互いに人格と個性を尊重し合いながら支え合う地域をつくっていくことを目指しています。

**そのためには、小学校・中学校の先生方の理解と協力が必要です。**



例えば・・・

「担任の先生が、訪問前に子供の写真付きのプロフィールを作成してくれたので、交流先の子供たちが温かく迎えてくれた。校門のところで「〇〇君来た」と案内してくれたことに感動した」という声がありました。

先生の小さな心遣いで、特別支援学校の児童・生徒や保護者はとてもうれしく感じ、地域とのつながりを実感します。

児童・生徒同士のつながりがより深まるよう、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターや学級担任と連携して、「ふれあい」を実感できる活動を、是非工夫してください。